

No.55
Mar. 2012



NSnet News



第24回管理者セミナー(特別編)の実施

第127回安全キャラバンの実施

第129回安全キャラバンの実施

安全キャラバン、セミナーの実施概要等は、ホームページに掲載しています。是非、ご覧下さい。

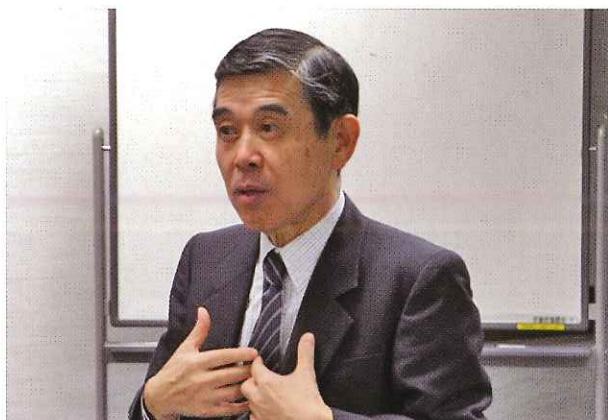
(<http://www.gengikyo.jp/activity/safety/index.html>)

第24回管理者セミナー（特別編）の実施

平成23年11月17日（木）、18（金）の2日間、東京都港区の仏教伝道センタービルにおいて、会員事業所の中堅管理者を主な対象とした第24回管理者セミナー（特別編）を開催し、19名の方にご参加いただきました。

今回のセミナーは、3月11日の大震災を踏まえて、組織安全の人間的側面から、中間管理職が「大震災から学ぶこと」、「今できること」、「しなければならないこと」について考え、議論し、自らの職場で実践する目標を設定し、それを実践することで、職場の安全レベルの更なる向上に役立てていただくことを目的に開催したものです。

参加者の皆さんには、各自の“考動”目標を設定して頂きましたので、今後の実践を期待しています。



▲ 吉田 道雄 様

1. 情報提供

今回の管理者セミナーでは、熊本大学教育学部附属教育実践総合センター教授 吉田 道雄様をお招きし、組織安全の基礎となる対人関係のインフラの構築やリーダーシップ発揮のための活動の必要性、組織安全を脅かす要因などについての情報提供や、目標設定に関する指導などをしていただきました。

参加者からは、

- ・タイムリーな情報提供は有意義で、アイディア、ノウハウも応用が利くものでした。

・吉田先生の講義に接するのは初めてであったが、職場安全向上活動をするうえで参考となる有意義な情報が多く、ありがたかった。
などの、ご感想を頂きました。



▲ 情報交換の様子

2. 情報交換（グループワーク）

今回は、「大震災から学ぶこと、今できること、しなければならないこと」をテーマに、3つのグループに分かれての討議、情報交換の後、全参加者での情報交換を行いました。

参加者からは、

- ・立場や業務範囲は異なるものの、同じ“原子力”分野の人達であるため、共有・共感できることが多く、グループワークでの様々な意見、考え方には参考になりました。

などのご感想を頂きました。

第127回安全キャラバンの実施

回	実施時期	会員名・事業所名	安全講演会講師	講演テーマ
127	H23.12.20	日本原子力発電（株）敦賀発電所	(株) 安全マネジメント研究所 代表取締役所長 石橋 明 様	「レジリエントな高信頼性組織を目指して—現場力向上を実現する戦略—」

平成23年12月20日、福井県敦賀市にある日本原子力発電（株）敦賀発電所において、第127回安全キャラバンを実施しました。

● 安全講演会

（株）安全マネジメント研究所の代表取締役所長 石橋 明 様から「レジリエントな高信頼性組織を目指して—現場力向上を実現する戦略—」と題して、ご講演をして頂きました。

講演では、

◆航空事故と比較して、交通事故による死者数はその減り方が鈍化している。労災においてもいまだに多くの方が亡くなっています。優良企業や大企業と言われる企業においても大事故や不祥事が絶えない。最近は、運輸安全マネジメントシステムの導入を背景として、予防安全対策が実践されるようになってきているが、こうした流れの中でヒューマンファクターズに注目し、なぜ人はエラーをおかしてしまうのかということを理解しなければならない。



▲ 石橋 明 様

◆ある事故が発生し、ヒューマンエラーが介在する

ことが明らかになった時、そのエラーの背後要因を検討し、それらがどのような流れで事故に至ったのかということを検討していくなければ有効な対策は立てられない。人間の能力や限界、人間の持っている基本的な特性をしっかりと見極めたうえで検討していくことが必要になる。特に、プロフェッショナルとしては常に頭脳明晰な意識水準で適切な判断ができることが求められる（例：ハドソン川の奇跡）。情報処理プロセスをもとに人間の行動パターンを見ていくと、初心者の陥りやすいエラーと熟練者の陥りやすいエラーや、人間の能力発揮を阻害する要因等が理解できる。

◆一般的に、ヒューマンエラーを当事者エラーとして分類・検討されているが、これは氷山の一角であると言え、組織エラー（潜在エラー）まで含めて検討することが重要である。このような組織エラーに対する対策として、航空業界ではテネリフェ空港事故等大事故を契機としたCRM訓練が開発された。これは、ノンテクニカルスキルを養成し、チーム能力を発揮することを目的とした訓練である。また、TWA514便事故を契機として、予防安全の視点からヒヤリハットに関する情報を収集する安全報告制度ができた。このCRM訓練と安全報告制度が、今日の航空の安全性に貢献する二大成果であると言え、参考にしていただきたいと思う。さらに、予防安全という視点からは、東日本大震災からも学ぶことが多い。中でも、良好事例を振り返ることで、その教訓を後世にどう伝えるか、危機管理にどう活かしていくかということが非常に重要である。

◆安全管理サイクルを構築するためには、不具合事象の情報を正確に把握し、ヒューマンファクターの視点から分析し、各要因に対してリスクアセスメントを実施して、リスクレベルの高いものから順に対策に盛り込み、それを確実に実践していくことが重要である。そのためには安全文化が必要であり、強い現場力が求められる。ここで、レジリエンス工学の考え方（対処能力・予測能力・モニター能力・学習能力・前向きな復元能力）を背景として、まず現場が自ら気づいて行動を起こせるような仕組みを構築し、環境を整備し、維持できるような現場力の高い組織（高信頼性組織）を構築することで、最終的に災害ゼロ・不適合ゼロが達成されるのである。

との貴重なお話を頂きました。

講演会終了後のアンケートでは、

- 基本的なところから教えて頂いたため、理解しやすかった。ヒューマンエラーを防ぐには人の特性を良く知った上で対策を考えること、エラーが起きたらその要因を探し、次に繋げることが大切ということを理解できた。
- 事故防止や安全維持に関し広く学ぶことができました。特に原子力以外の他産業の例示もあり理解を深める参考になりました。
- 講演内容の中でヒューマンファクター、安全管理サイクル等全ての項目で頷けることが多々あった。その中でも安全文化と高信頼組織の内容をもっと掘り下げてじっくりとお話を聞きたい心境になった。
- ヒューマンエラーの起きる要因と発生するメカニズムについて、より深く理解することができました。要因として挙げられている中でも、現場での権威勾配やエラー対策について、現場操作における人員配置やグループ内コミュニケーションを正確に行い、ヒューマンエラーの低減に努めたいと感じました。
- 現場力を高める手法を私たちの職場に取り入れて活用して行き安全文化を高めて安全作業を行っていきます。

などのご意見・ご感想をいただきました。

● 安全情報交換会

安全情報交換会では、日本原子力発電（株）殿から「敦賀発電所 ヒューマンエラー低減活動の取組み」の報告を頂き、関連する活動事例として関西電力（株）殿から「原子力発電所における危険予知活動の現状」の紹介頂きました。その後、原技協から「HE の低減に向けた諸活動」の紹介を行い、上記の取り組みに関する意見の交換を行いました。



▲ 安全情報交換会の様子

第129回安全キャラバンの実施

回	実施時期	会員名・事業所名	安全講演会講師	講演テーマ
129	H24.1.20	独立行政法人 日本原子力研究開発機構 敦賀本部高速増殖炉研究 開発センター（もんじゅ）	ダイナミックヒューマンキャピタル（株） 代表取締役 中村 文子 様	「印象に残る効果的な コミュニケーションスキル」 ～参加者主体のコミュニケーション 手法を体験するワークショップ～

平成24年1月20日、福井県敦賀市にある（独）日本原子力研究開発機構敦賀本部高速増殖炉研究開発センター（もんじゅ）において、第129回安全キャラバンを実施しました。

● ワークショップ

原子力機構の社員、及びもんじゅで業務に従事されている協力会社の社員61名が出席されました。

今回はダイナミックヒューマンキャピタル（株）代表取締役 中村 文子 様をお招きし、『印象に残る効果的なコミュニケーションスキル』～ 参加者主体のコミュニケーション手法を体験するワークショップ～と題してワークショップを実施いたしました。



▲ ワークショップの様子

ワークショップを通じて、朝礼、終礼、作業指示などにおけるコミュニケーションについて体験を交えながら学び、現場での実践について考察・検討することにより更なるコミュニケーションの向上を図ることを目的としました。

ワークショップの内容として、

（1）手法体験の概要

「参加者主体」の運営には、参加者の方々に積極的に学習に関与していただくことが前提であり、参加者全員へのグループ内での役割分担、他グループの人とのコミュニケーションなどを通して「参加者主体」のクリエイティブトレーニングテクニックを体験していただきました。



▲ 中村 文子 様

(2) ワークショップの概要

① 効果的なオープニング

- ・朝礼などの会合に参加した際に会合へ関心を集中する
- ・緊張を取り除きリラックスし集中できる環境をいかに作るか

② 効果的なクロージング

- ・朝礼などの会合で聞いた内容を自分の仕事にどう活かすか考える
- ・前向きな雰囲気で終わる

③ 学習したことを記憶に残す方法

- ・朝礼などの最初と最後を大事にする
- ・記憶の仕方（書いて覚える、リピートする、関連付けるなど）
- ・記憶は時間と共に薄れる、繰り返しの学習が効果的

④ 「参加者主体」の主要概念

- ・理解力を保ちながら集中力を保つ限界がある
- ・記憶にとどめながら集中力を保てる限界がある

最後に、講師から「職場で実践しよう」と思うことを各自取り上げるとともに、午前中しか参加できなかった人に午後の内容をぜひ伝えて欲しいとのメッセージが出された。

ワークショップ終了後のアンケートでは、

- 自分の行ってきたコミュニケーションの仕方について本当に適切だったか考えるきっかけとなった。より大勢の人達、特に職位の上の人ほど受講すべきと思う。
- グループミーティング、部下への指示において、覚えていて欲しいことなどの様に話をするか役立つ。
- 現場で指示を明確に行えることによりプラントを安全に運転できる可能性がある。
- 終わってみると、とても多くを学ばせて頂ました。すぐ使えるテクニックばかりで有用だと感じました。

などのご意見・ご感想をいただきました。



インターネットで当協会及び安全文化推進部の詳しい活動内容をご紹介しています。

<http://www.gengikyo.jp/>

(表紙写真 / 原技協職員撮影)

NSnet News No.55 2012年3月号

〒108-0014 東京都港区芝四丁目2-3 NOF 芝ビル7階
一般社団法人 日本原子力技術協会 安全文化推進部
TEL:03-5440-3604 FAX:03-5440-3607

